

花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2018.SUMMER



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. 25

特集
学生が主体的に社会の課題と向き合う
アントレプレナーシップの
夜明け

授業紹介-教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information



真の強さを学ぶ。



新潟大学



Cover Photo

平成25年にリニューアルした中央図書館。とりわけ印象的なのは閲覧エリアの吹き抜け。天気の良い日は天窓から差し日差しが階段を行き来する利用者を優しく照らす。

2018.SUMMER vol.25

CONTENTS

- 03 特集
学生が主体的に社会の課題と向き合う
アントレプレナーシップの夜明け
- 08 授業紹介 -教育の現場-
- 09 Enjoy! **学生ライフ**
- 10 注目される**研究報告**
- 12 シリーズ **恩師と語らう**
- 13 活躍する卒業生紹介 **“学びの先”**
- 14 **OBOG・教員によるコラム**
- 15 **基金関係のお知らせ**
- 16 **Campus Information**

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実!

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取り組みや普段の様子、フォトジェニックな風景などをお楽しみいただけます。

- @niigata.univ
- @Niigata_Univ_O
- @niigata_university

特集

学生が主体的に社会の課題と向き合う

アントレプレナーシップの夜明け



近年、学生を対象としたビジネスプランコンテストで本学の学生が華々しい成績を立て続けに受賞し、地方の国立大学においてはまだまだ珍しい学生が在学中に起業する動きも見え始めた。
学生が主体的に社会の課題に向き合いながら自身の学びを活かし解決を目指す、にわかに盛り上がりみせる新潟大学の「アントレプレナーシップ」に迫る。

社会から求められる 問題を発見する力と 課題解決能力

本特集を構成する上で中心となる話を聞いたのは経済学部の伊藤龍史准教授。伊藤ゼミの学生はビジネスコンテストに積極的に参加し、数々の優秀な成績を修めている。本学におけるアントレプレナーシップを考える上で重要な立場にある教員のひとりだ。まだまだ聞き慣れない「アントレプレナーシップ」。まずは、この言葉の意味するところを聞いた。

「言葉自体は経済学者、ヨーゼフ・シュンペーターによるものです。日本語訳がなかなか難しいのですが、一般的には「企業家精神」と訳されることが多いと思います。しかし、私は言葉自体の意味をそれほど重視しません。それよりも重要なのは自分にとってのアントレプレナーシップを定義することです。実際、この言葉の定義は実に多様で、「起業する気概」と位置付ける人もいれば、「社会で解決されていない問題を見だし、それに取り組むこと」と考える人もいます。また、ある人にとっては「既存のもの新しい視点から再構成すること」という意味を持ちます。私個人としては、問うべき問題を自ら見つけ、自律的かつ主体的に解決策を導き出していくことと考えています。内外の様々な知識を使いながら、新しい解決策を導き出していくスタンスのことを指す言



経済学部
伊藤龍史 准教授

葉だと理解しています」
これは新潟大学の掲げる「自立と創生」という理念にも重なる。現状の社会情勢を鑑みても、このような力を持つ人材が求められていることは明らかだ。ビジネスの現場に限らず、日常生活においても、私たちは問題解決が必要な状況に多々出会う。直面した問題を定義し、そこに向けて解決法を導き出していくという行為を私たちは繰り返している。しかし、現実社会で直面する問題は実に多様かつ複雑で、それは他者によって定義づけられているという状況はありえない。そもそも問題自体を見つけ出せなければ、解決策もない。その意味で現代社会では、まず課題を見つける力が求められているのだ。



経済学部チーム「にゅーふえいす」

「まず、国内における大学と企業、あるいは大学と社会の関係を理解するところから始める必要があります。これまでは、それぞれが積極的に関わる機会は少なく、その間には見えない境界線があったように思います。しかし、近年、その壁が以前より低くなってきています。学生向けのビジネスコンテストが多く開催されている状況にも、このような背景があると私は考えています。企業と関わる動きが日本の大学教育において活発になってきた要因のひとつには、問題解決に当たる際の企業の意識変化があります。従来、日本企業が問題解決に当たるときには、社内資源を用いる志向が強くと



経済学部チーム「3びきのこぶた」

Entrepreneurship 学生の事例: 1 経済学部4年 植松美香子/山口夏未/高井真由

「にゅーふえいす」

日本酒が苦手な女子大学生の目線で新しい日本酒の楽しみ方を提案

経済学部の日本酒が飲めない女子学生3名による日本酒推進プロジェクト。当初は「日本酒を使った飲める化粧水」というアイデアからスタートしたが、数々のビジネスコンテストを経て内容をブラッシュアップ。飲みやすい少量の日本酒3種類とおつまみを合わせたギフト開発というプランに辿り着いた。グローウィル社による「ビジネスプランコンテスト in フォッサマグナ」(NIIGATA COC+共催)コンテストで優勝。米国大使館と慶応大学による「The 6th U.S. Embassy-Keio SFC-TOMODACHI Entrepreneurship Seminar」では最優秀案件のひとつに輝く。「受

賞特典として、約10日間のアメリカシリコンバレー研修に参加し、Googleやスタンフォード大学など世界を代表する企業や大学を訪問しました。自分たちの肌で世界の企業家精神を学ぶという貴重な経験ができました」。2017年からは本格的に商品化を目指し、苗場酒造のサポートを得て実現。クラウドファンディングで販売をスタートした。「認知はされるが、なかなか買ってもらえないという状況を目の当たりにし、プロモーションの難しさを実感しました。まずは実行するところから積極的になれたとメンバー全員が感じています」



720mlボトルに入れた3種の日本酒とおつまみのセット



「にいがた酒の陣2018」のブースで商品をPR

コンテスト参加と企業コラボを進める伊藤ゼミの取り組み

「日本における大学の理論と企業の間にある距離感については、私自身が学生だった頃から問題意識としてありました。大学教員になってからは、さらにそこに対して意識的になり、米国大使館と慶応大学が行っているアントレプレナーシップコンテストにゼミの学生が応募しました。それが2012年です。以降、ビジネスコンテストへの参加には力を入れて取り組んでいます」

伊藤准教授によれば、ビジネスコンテストは大きく分けて4種類に分けられる。ビジネスアイデアを募るもの、ビジネスプランを募るもの、ビジネスモデルを募るもの、そして問題意識の発見を目指すものだ。いずれも主催する組織があり、その組織が解決したいと考える問題がテーマになる。こ

れまでにビジネスコンテストに参加した学生グループはどのようなプランがあったのか。
「女子学生の3人チーム「3びきのこぶた」が取り組んだ「えほんカタログ」というプロジェクトがあります。これは結婚式の引き出物カタログを、カタログの性格を保ったまま、新郎新婦オリジナルの絵本に変えるというものです。彼女たちはカタログとはいえ大切な結婚式のギフトが注文後に捨てられるのは寂しいと感じ、後々も手元に置いて楽しめるものにしよ」と、このアイデアを考えました。絵本の内容は新郎新婦の物語で、その中に出てくる挿絵がギフトになっています。ページ内のQRコードから注文ができるという仕組みです。このアイデアは、第四銀行と新潟三越伊勢丹のビジネスアイデアコンテストで学生部門のグランプリを受賞し、実際に商品化しました。彼女たちは卒業しましたが、それぞれ就職した後もビジネスとして継続しています」

日本における大学と企業の関係性 教育現場の現状

「まず、国内における大学と企業、あるいは大学と社会の関係を理解するところから始める必要があります。これまでは、それぞれが積極的に関わる機会は少なく、その間には見えない境界線があったように思います。しかし、近年、その壁が以前より低くなってきています。学生向けのビジネスコンテストが多く開催されている状況にも、このような背景があると私は考えています。企業と関わる動きが日本の大学教育において活発になってきた要因のひとつには、問題解決に当たる際の企業の意識変化があります。従来、日本企業が問題解決に当たるときには、社内資源を用いる志向が強くと



「これは私自身がアメリカに行つて体感したことです。でも、それもアメリカでは企業と大学は一体だという感覚でビジネスが行われています。このスタイルや考え方が、ようやく日本に浸透してきたのではないのでしょうか。その表れのひとつが、『オープンイノベーション』という言葉の流行です。これは新技術・新製品の開発に際して、組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図るという意味ですが、日本企業が実際に外部資源を利用して課題に取り組みことで、その利点を知り、外部と継続的に関わろうという雰囲気醸成されてきたのだらうと思います」

「おそろく、以前は両者の間に差があったと思います。しかし、最近ではそれほど極端な開きはないのではないのでしょうか。私の知る限り九州大学、会津大学、宮崎大学、東北大学には学生の起業に関連する組織（例えば起業部）というものがあり、学生たちが積極的に企業と関わる状況ができて

「これは私自身がアメリカに行つて体感したことです。でも、それもアメリカでは企業と大学は一体だという感覚でビジネスが行われています。このスタイルや考え方が、ようやく日本に浸透してきたのではないのでしょうか。その表れのひとつが、『オープンイノベーション』という言葉の流行です。これは新技術・新製品の開発に際して、組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図るという意味ですが、日本企業が実際に外部資源を利用して課題に取り組みことで、その利点を知り、外部と継続的に関わろうという雰囲気醸成されてきたのだらうと思います」

「工学系のアントレプレナーシップでは、プロダクトアウト型が多い印象を受けます。やはり技術から出発するので結果的に製品に着地するのだと思います。ビジネスとしてはマーケットイン型も重要なので、私のゼミではそちらに力を入れていきたいと考えています」



「工学系のアントレプレナーシップでは、プロダクトアウト型が多い印象を受けます。やはり技術から出発するので結果的に製品に着地するのだと思います。ビジネスとしてはマーケットイン型も重要なので、私のゼミではそちらに力を入れていきたいと考えています」

「これは私自身がアメリカに行つて体感したことです。でも、それもアメリカでは企業と大学は一体だという感覚でビジネスが行われています。このスタイルや考え方が、ようやく日本に浸透してきたのではないのでしょうか。その表れのひとつが、『オープンイノベーション』という言葉の流行です。これは新技術・新製品の開発に際して、組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図るという意味ですが、日本企業が実際に外部資源を利用して課題に取り組みことで、その利点を知り、外部と継続的に関わろうという雰囲気醸成されてきたのだらうと思います」

「工学系のアントレプレナーシップでは、プロダクトアウト型が多い印象を受けます。やはり技術から出発するので結果的に製品に着地するのだと思います。ビジネスとしてはマーケットイン型も重要なので、私のゼミではそちらに力を入れていきたいと考えています」

Entrepreneurship 他学部の動向

「工学部 融合領域分野 協創経営プログラム」

Collaboration and Co-creation
協働と協創を通じた社会イノベーションの実現

平成29年度1学科制に改組された工学部の9つの主専攻プログラムのうち、2つの文理融合型プログラム(融合領域分野)のひとつとしてスタートした本プログラム。これからの社会が直面する問題を解決するためには、多様な能力を持った人々をチームとしてまとめ、リーダーとなれる人材が必須。本プログラムは、理工系の知識と人文系の知識を駆使し、社会で起きている多様で複雑な現象から具体的に問題を発見し、実行すべき課題を抽出し解決まで導くことを通じて国際的に活躍できる人材育成を目的としている。「工学的側面から様々な技術を統合し解決策を見出すことのできる人材力」「構想(プロデュース)力やマネジメント力、リーダーシップをもつ人材力」「社会科学的視座から世界に通用する地域産業の発展に貢献できる人材力」などの習得を目標に掲げる。

※1年次は分野に所属し、2年次に主専攻プログラムを選択



科目名:アントレプレナーシップⅠ

●対象:工学科融合領域分野1年生(他学部も履修可)

社会に潜在する漠然とした課題に応えるため、課題の顕在化と解決のための具体的な方策を構想・立案し、それを事業化することが求められる。本科目では、主に新潟県内で新規に事業を興し、ユーザーや顧客のニーズに応えてきた企業や組織から講師を招き、なぜ、どのようにして新規事業を立ち上げ、様々な障害を乗り越えて成功に導いたのかを具体例を通して学ぶ。

科目名:アントレプレナーシップⅡ

●対象:工学科融合領域分野協創経営プログラム2年生(他学部も履修可)

本科目では、起業をする上で欠かせない手順、社会や顧客を分析する手法を学ぶ。さらに起業家、起業に関わる支援機関から話を聞き、ビジネスを創り出すイメージを養う。本科目の学習内容を駆使し、実際の起業事例を分析することで、起業家としての素養を高めていく。授業は一方的な講義形式をとらず、ディスカッションや学生によるプレゼンテーションの機会を盛り込む。

最後に、伊藤准教授が考えるアントレプレナーシップの今後の展望と期待を聞いた。

「ゼミ単体としての大きな方向性は先述したビジネスコンテストへの参加と、企業コラボレーションというふたつの柱を大切にしたいと思っています。私たちの取り組みは新潟県内では非常に目立つよう、アントレプレナーシップのオフ会は年々増えてきています。だからと言って単に取り組みを拡大するのではなく、柔軟性を保つたまま支援者側の体制を整えていく必要があると思います。」

さらに、大学内での連携の必要性は今後さらに高まると言葉を続ける。

「私の専門のひとつはマーケティングですが、プロダクト開発をする場合には理系の力が必要になるでしょう。そのようなケースでは、大学内での横の連携が求められると思います。今後はアントレプレナーシップの柔軟性を保ちつつ、学内で横断的に取り組む事例が出

てくることを期待しています。以前に第四銀行が主催したコンテストで優勝したのは本学の学生のアイデアで、内容はビジネスシューズを雨から守るレインシューズカバーでした。これは、ビジネスシューズを水から守るためにテント生地を使いカバーを作るというアイデアでしたが、生地を立体的に繋げたり、縫い合わせるのが難しく、実際のプロダクト開発は難航しました。そこで出会ったのが工学部の佐々木先生の研究室にあった超音波接合の技術です。実際に試したら見事に圧着に成功しました。諸事情により惜しくも商品化には至りませんでした。学内の横の連携ができた事例だと考えています。」

アントレプレナーの精神は新潟大学が掲げる「自律と創生」という理念や、「真の強さを学ぶ。」というタグラインに直結する。ビジネスコンテストや企業コラボレーションでの経験を、学生は実際に実践的な学びをし、実際の商品化や起業に向けて動き出す学生の姿も見られるようになった。学生時代から問題意識を持ち、課題解決のためには何が必要なのかを意識することは学びの質を高める。さらに、実際にプロジェクトや研究を進めていくうえで学内の連携は強い後押しになることも期待される。新潟大学におけるアントレプレナーシップの萌芽を感じる現状を分析し、さらなる発展に期待したい。

もうひとつの柱は、県内企業とのコラボレーション。実際に企業が抱える問題を提示してもらい、その問題について学生が解決策を提示し、最終的には採用までを目指し取り組む。伊藤准教授によれば企業が大学や学生との連携を図る際、その目的のひとつは以下のようなものだという。

「学生から問題解決のヒントを得ようという企業は、相手が大学生であろうが専門家であろうが、外部の人間に対し社員同様に接してくれず、アイデアが優れていれば実際に採用してくれます。今年度はひらせい、MGNET、グローバルマーケティング、ネクスコ東日本、東京海上日動の5社と取り組んでいます。ひらせいとは、新しい店舗内マーケティングやプロモーション戦略というテーマに対して解決策を提示するのが目的で、店長会議と取引先が参加する戦略会議でのプレゼンを目標にしています。コンサルティング会社のグローバルマーケティングとは、学生同行でクライアントに提案するというコラボレーションを行っています。また、ネクスコ東日本とは、新潟支社が管理するサービスエリアやパーキングエリアを利用した地域活性化を課題にしています。いずれのケースでも、学生ならではの視点に加え、きちんと論理と普遍性が伴うものを提示することで、その価値を企業に認識していただきたいと思っています」



ひらせいの店長会議でのプレゼンの様子

企業の現状を知らない単なる素人の意見では、一時的な目新しさはあるが採用は難しい。大学ならではの専門的な学びに裏付けられた論理に支えられているアイデアを得ることが、起業が大学と関わる際のメリットだ。

「研究室でもゼミでも、学生には、単なるおもしろいアイデアで終わっては意味がないと強く言っています。きちんとした論理や理論で支えられたもので相手を説得する力がなければなりません」

このようなゼミでの実践的な学びや活動を経て、学生たちが身につける力はどのようなものなのだろうか。

「誤解を恐れず言えば、座学では教科書に書いてあることが果たしてどの具体的な現象と結びついているのか分からないままに、断片化知識を吸収しているという傾向があります。しかし、ゼミでは自分やチームの考え(ビジ

起業の動機

自分にとって中核的な価値を実現することができる
世界を変えるような新たな取り組みができる
友人や同僚、コミュニティのメンバーなど、自分が強い一体感を抱いている人々の課題を解決することができる
ビジネス界でのキャリアを進展させる
主に金銭的な成功を達成する
社会的不正や環境破壊など通常、営利ビジネスでは対処できない課題を解決することができる
自分の能力を、将来の従業員や同僚など他人に示すことができる
友人や同僚、コミュニティなど、自分が強い一体感を抱いている集団の動きを先取りして実現する役割を担う

(出所)大学生の起業意識調査レポート ―GUESS2016 調査結果における日本のサンプル分析 4.2 起業の動機とパフォーマンス

Entrepreneurship 学生の事例:2 教育学部4年 中井智貴/工学部4年 笹原俊介

「株式会社プライミ」

新潟大学初となる学生起業
遊び×達成経験を子どもに提供する

子ども達の挑戦する機会をつくり、「できた!」という経験から自己肯定感を醸成することを目的に活動する学生団体CANS。3万個のドミノを並べたり、100メートルのピタゴラススイッチを作るなど、遊びを通して子どもに達成体験を提供している。その立ち上げ時に代表を務めた教育学部4年の中井智貴さんが今年6月、株式会社プライミを設立。CANSの活動を発展させる形で事業を進める。「現在の小学校教育の現場では、勉強とスポーツがどれだけできるかが重要な指標。はじめて自転車に乗れたときや、逆上がり

ができたときの成功体験の重要性は見過されがち」と語る。在学中の起業については「自分たちや社会にとって価値があると考えているものを続けるためには、ビジネスとして成立させることが必要だと思いました。学生起業を意識したわけではなく、今が事業化にふさわしいタイミングだと判断しました。漠然とした不安はありますが、周囲に応援してくださる方が多く、総合的に判断すると学生時代の企業はメリットの方が強いと考えています。直近のプランとしては東京都千代田区の教育委員会と連携してイベントを開催します。そこを経て、都内の他の区でも事業を展開し、認知を高めていきます」



学生団体CANSの活動。昨年開催の「巨大バルーン水族館」の様子



代表の中井智貴さん

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学のみならずサークル活動を始め様々な課外活動で活躍しています。このコーナーでは、そんな青春の1ページをお届けします!

CAMPUS TOPICS

農学部の学生チームが新潟市主催「南区お土産アイデアコンテスト」アイデア部門で最優秀賞を受賞しました

新潟市主催による「南区お土産アイデアコンテスト」において、本学農学部応用生物科学科3年生(実施時)のチームがアイデア部門で最優秀賞を受賞し、3月29日(木)に表彰が行われました。このコンテストは、新潟市南区の農産物や伝統文化などの地域資源を活用し、南区ならではのお土産のアイデアを募集し、地域産業の活性化や新たな創業の促進を図ることを目的に実施されたものです。「和梨づくし(和梨ジャムを包んだわらび餅)」と銘打ち、加工が困難かつ風味が消えやすい和梨の良さを生かした加工食品を作ることと南区の農業をアピールでき、規格外の和梨でも加工することで新たな販路ができ、廃棄物の減少とともに農学の発展を目指すプランで見事最優秀賞に輝きました。このビジネスプランは昨年度、新潟市アグリパーク食品加工支援センターでのインターンシップがきっかけで生まれたものです。



年間学業成績優秀者に奨学金を授与しました

5月24日(木)、年間学業成績優秀者に対する奨学金授与式を実施し、学生及びそのご家族が出席しました。この制度は、各学部(医学部は医学科及び保健学科)2年次以上の学業成績優秀者各学年各3人(創生学部は2年次の3人)に対し年間10万円の奨学金を授与することにより、本人の更なる学業成績向上と大学全体の活力の醸成を図ることを目的とする本学独自の制度です。今年度は10学部105人の学生に奨学金が授与され、高橋学長からの賛辞と激励の言葉を大浦教育担当理事が代読後、学生代表から、「この度は、私達に奨学金を授与していただきありがとうございます。これまでの努力を、このような形で評価していただいたことを大変うれしく思う一方で、気が引き締まる思いでもあります。今後はこの学びを社会に還元できるよう、より一層精進してまいります」との謝辞がありました。



CIRCLE PICK UP!

音楽倶楽部 バンド活動を通して 人間的に成長し充実した 大学生活を送ることがモットー

みんなで演奏を
合わせる気持ち良さが
バンドの醍醐味です



部長 古市真大さん
(工学部3年)

グラウンドに隣接する音楽練習室から聞こえてくるドラムやギターの大きな音。扉を開けると予想に反して爽やかな学生達が迎えてくれた。音楽倶楽部は、現在部員約160人の大所帯。学部学年男女はもちろん経験も問わず様々な学生が所属する。「バンドのイメージからすると穏やかな部員が多いかもしれませんね(笑)。ジャンルも洋楽からポップスまで幅広く演奏しています。毎週の定例会をはじめ、月に一回学内でライブ、新大祭はもちろん学外のライブハウスで定期コンサートも行っています。先輩が講習会を定期的に開催するので楽器初心者も馴染みやすく、全員活動ができるよう毎回違うメンバーでバンドを組むよう配慮しています。自分を表現すると同時にバンドだからこそ協調性も必要となります。音楽を突き詰めることができることはもちろんですが、多くの友達ができたり人間性を成長させられることも魅力です」



↑ライブハウスでの定期コンサート
←オープンキャンパスや黎明祭、新大祭ではキャンパスの中でも演奏する

平松庸一 准教授

Yoichi Hiramatsu

Profile
博士(学術)。専門は戦略マネジメント、組織行動論、組織論。



ディベート

講義と演習を組み込み
実践的なチームビルディングスキルを修得

工学部協創経営プログラムの『ディベート』では、文理融合の視点から多様なバックボーンを有する学生を様々な仮想問題に对峙させる。主観的な意見を留保して、客観的に争点を両面から分析、整理し、問題を俯瞰することで本質を探りぬく能力の形成を目指す。二連のプロセスを通じて自分と相手の考え方の長所と短所に気づき、結果的に人間理解力の向上と学問的スタンスの修得につながります」と担当教員の平松庸一准教授。

「社会で起きていることを私たちが理解するために用いる言葉は、実は事実(だけ)によって規定されているとは言い難いのです。なぜな

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

vol.24・工学部

STUDENTS VOICE



左:金子楽々さん
(工学部工学科2年)
右:西村辰斗さん
(工学部工学科2年)

「相手の意見の違和感を見つながら、自分の意見を伝えることの難しさを学びました。相手がいるのでゴールが見えず、どこまで準備を進めるかの判断にも苦労しました(西村)「常にチームが主張できる立場を保つために、メンバー全員が問題を理解し、助け合うことが不可欠です。話の要点をまとめて聴く力がつきました(金子)

「ディベートとはテーマについて賛否ふたつのグループに分かれて行われる討論のこと。本授業の目的は勝ち負けで

ら言語の意味は、その使用される状況によって多様に變化するからです。問題に直面した際、私たちが互いに分かり合えたという確信に至るためには、少なくとも複数の人との対話が必要になるのです」

「学習到達目標は以下の3点です。まず、演習問題に対して問題を発見し、そこから自分なりの課題を導出し、解決にいたるシナリオを独力で提示できるようになること。次に、チームメンバーと協働し、ひとりではできない広がりや深みのある思考プロセスを修得すること。最後に、数量的、定性的に多様な情報を収集し、それを分析する能力を身につけることです」



はなく、ディベートという方法論を活用して様々な能力を開発することにある。講義最終回はディベート大会の決勝戦。「新潟を国際文化創造都市にするために」を前提に、「AI導入の是非」について熱い討論が行われた。他大学の学生や社会人も聴講する中で発表・反論を繰り返す中、審査の結果、肯定派が優勝した。

新潟観光
ドライブパス

新潟・北信濃・会津
周遊プラン

利用期間	2日間 (週末型)	3日間 (全日型)
普通車	5,700円	7,500円
軽自動車等	4,500円	6,000円

「新潟県内・長野県の北信濃地域・福島県の会津地域」のエリア内が乗り放題の周遊プラン

ETC 限定
0570-024-024
または03-5338-7524

詳細・お申し込みは、NEXCO東日本ウェブサイト「ドライブ」にてご確認ください。

はれやか
玄米

1日4粒で美容と健康をサポート

玄米サプリで イキイキ美しく!

お問い合わせ先
(通話料無料) TEL | 0120-93-8324

「ココがちがう!はれやか玄米」

4粒の中に玄米ごはん3杯分の
栄養が濃縮!

ビタミンB1 亜鉛
ビタミンB2 鉄
ビタミンB6
ビタミンE
パントテン酸
ナイアシン

お米由来の
「植物性乳酸菌K-1」を
1,000億個配合

受付時間 月曜日～金曜日/9:00～17:00
(祝日・お盆・年末年始を除く)

詳しくはWEBで
はれやか玄米 検索

人文社会・教育科学系 (法学部)
今本啓介 准教授



Profile | 修士(政治学)。専門は行政法・租税法。自治体財政の法的問題を研究。

研究
課題

夕張市の財政破綻を念頭に、アメリカの自治体破綻法制について 制度背景と現在の議論状況を明らかにする

財政運営が逼迫した自治体に対し どのような枠組みで対応するべきか

う段階が新たに作られ、後者の段階では、自治体の自主的な財政再建に委ねられることとされました。また、第3セクター等の財政状況も含めて考慮され、現在は夕張市が財政再生団体に指定されるのみで、財政健全化団体に指定される自治体はなく、自治体の財政統制はうまくいっているように見えます。しかし、財政再生団体である夕張市では、約322億円の再生振替特例債を平成21年度から21年間で完済するという財政再生計画が策定されましたが、この計画は債務の完済を前提としており、住民税の増税や住民サービスの削減を伴うものであることから、人口が減少し続けています」

一方で、地方財政健全化法が制定された当時の議論では、地方債の完全自由化、再生型破綻法制や自治体債務の調整(自治体債務の免除)の必要性が取り上げられたものの、地方財政健全化法ではいずれも実現しなかった。これらの制度案は、アメリカ合衆国における自治体破綻法制(特に、最近ではミシガン州デトロイト市において適用されたことで話題となったチャプターナイン(連邦倒産法第9章)の手続)を参考にしたものであるが、いずれの面も現在の制度の前提からは離れたものである。

「アメリカのチャプターナインによる手続は、連邦倒産法の1章として設けられたものですが、通常の倒産手続とは異なり債務調整のみを予定しています。そして、手続としては、債務者である自治体が債務調整計画を提出し、裁判所がこれを認可することによって進められるというのが全体の流れです。アメリカのチャプターナインによる手続をはじめとする自治体破綻法制について、その制度背景や制度の適用状況、制度をめぐる議論を参照し、わが国における自治体破綻法制の構築の手がかりを考察することが目下の関心事です」

新潟市の財政運営が危機的であることは、既に報じられているところであるが、実際に財政運営が逼迫した場合にどのような枠組みで対応するのが望ましいかという点について、アメリカの自治体破綻法制を参照しながら明らかにしていくことを目下の研究課題としている。自治体の財政破綻では北海道夕張市が有名だ。現在の自治体の財政破綻に対応する制度としては、平成19年に施行された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(地方財政健全化法)」がある。

「この制度では、従前の財政再生団体に相当する『財政再生団体』に指定される前に『財政健全化団体』への指定とい



↑夕張駅とスキーリゾートの宿泊施設



↑観光施設である石炭博物館



↑夕張駅(来春廃止)

医歯学系(新潟大学大学院
医歯学総合研究科 口腔生化学分野)
照沼美穂 教授



Member | 博士(歯学)。専門は神経化学、神経生物学、生化学、神経薬理学。

研究
課題

GABA受容体の 機能調節機構の解明

神経細胞に発現するGABA受容体の役割を 様々な脳の部位で解析・研究

脳は興奮性と抑制性、2種類の神経伝達でバランスを保ち機能する。GABA受容体とは脳をつかさどる重要な受容体。照沼美穂教授は、この神経細胞に発現するGABA受容体の役割を様々な脳の部位で解析、研究を進めている。

「歯学部というと口腔のみを研究対象にする印象があるかもしれませんが、私のように中枢神経を専門にする研究者もいます。GABA受容体はイオンチャネル型GABA_A受容体と代謝型のGABA_B受容体に分けられます。それらの発現がどういったシグナルを受けて調節されているかを、培養細胞や遺伝子改変マウスなどを使って調べています」

食欲に関わる満腹や空腹などの感覚

は脳の視床下部での働きによって生じている。それらに関連するものこのGABA受容体だ。

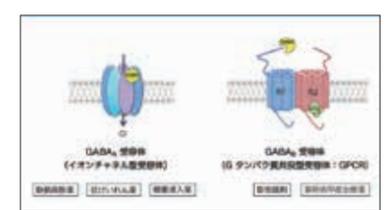
「食べ物を“美味しい”と感じる気持ちは、五感で感じた様々なインプットが神経細胞を伝わり、脳に届くことで起こります。しかし、GABA受容体の抑制が高まった場合、“美味しい”という感情を長期記憶することができなくなることが研究を通して分かっています」

このように脳と口腔の関係は非常に密接だ。また、GABA受容体は薬のターゲットとしても注目されている。

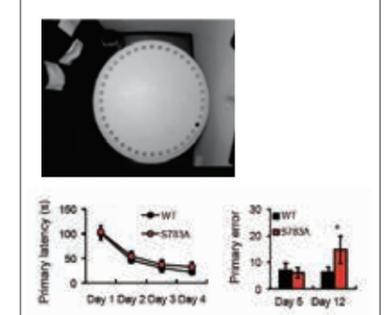
「新薬開発には受容体がどのように動いているのかを理解することが重要です。そのメカニズムを理解することによって特異的な症状に効果的な薬剤開発に貢献できるのです。特にGABA受容体はアルコール依存症や精神疾患などと関連して調べられています。アルコール依存症の患者に対してGABA受容体の興奮性を抑えても効果はありません。一方の抑制性を高めることで症状が緩和されることが分かりました。受容体そのものの研究はまだ未知の領域が多いのですが、私たちの基礎研究が形になることで、薬物やアルコール依存を抑制することができる可能性が高まります。このように歯学部の特色をいかして、口腔機能と脳機能の連関について、さらなる研究を進めていきたいと考えています」

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介!
注目される
研究報告

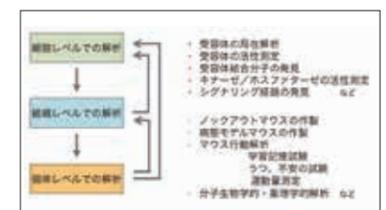
新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。



↑ GABA受容体の種類と構造



↑ GABA_B受容体の活性が高いマウス(S783Aマウス)は長期空間記憶形成に障害がある



↑ 照沼教授の研究アプローチと手法



社内のカフェテラスでのミーティング風景。社内では基本的に英語でコミュニケーション



ブロックチェーンは各業界に革新をもたらす、透明性が高くセキュアなデータベースの新しい形



社員は日本人で20人(国外を含めると40人)。平均年齢29歳ながら様々な経験を積んだ人材が集まっている



株式会社EMURGO
広報マネージャー
三本 俊輔さん
Profile.
1983年、新潟県加茂市生まれ。2008年3月人文学部地域文化課程卒業。同年NTTコミュニケーションズ株式会社入社。その後、株式会社ネクソンを経て、2018年より現職

活躍する卒業生紹介
”**学びの先**“
新潟大学で”真の強さ“を学び、社会に羽ばたいた10万人を超える卒業生。社会で活躍する卒業生をご紹介します。

企業の成果を正しく伝え、評価を得るために必要なのが広報

社のビジョン策定やウェブの監修、SNSでの情報発信など多岐に渡ります。また、先日行われたジャパンプロックチェーンカンファ

「ブロックチェーンで社会を変える」

ブロックチェーンは、元々仮想通貨の中核技術を原型とするデータベースシステム。三本俊輔さんは、時価総額世界7位と言われる仮想通貨「イーダ」を支えるカルダノブロックチェーン技術を扱う、株式会社エ

ブロックチェーンは、元々仮想通貨の中核技術を原型とするデータベースシステム。三本俊輔さんは、時価総額世界7位と言われる仮想通貨「イーダ」を支えるカルダノブロックチェーン技術を扱う、株式会社エ

になつて個人に価値が蓄積され、また社会の仕組みを相互監視することが可能になります。金融の世界では、安価な手数料で素早く海外送金ができるようになります」

学生時代の専攻は考古学。徹夜で論文を読み、発掘調査や行政発掘のアルバイトに明け暮れていたのは実利より興味だ。「考古学を通じて学んだのは現場の大切さ。論文を書くために新潟県内

にある百カ所以上の遺跡に足を運びました。文献やネットで調べれば分かるものもありますが、現場を見なければ気付けなことも多い。また、英語も話せないまま向かった東南アジアへの放浪旅では、様々な国の人々とコミュニケーションを取り、グローバル志向に目覚めました」

学生時代の経験とキャリアアップを通して身につけたスタイルがある。「常に変わらないのは、おもしろいものに携わっていたという姿勢です。その近くにいると人生を損しているような気持ちになつてしまいます。企業にとってメディア露出があるかないかでは、その認知度は大きく変わります。その成果を正しく社会に伝え、正しい評価を得るために必要なのが広報です。社会をよりよい方向に導いていく企業としての存在感と使命を、分かります」

Information

株式会社EMURGO
Twitter
@Emurgo_Japan

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」入会受付中!

新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行しています。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

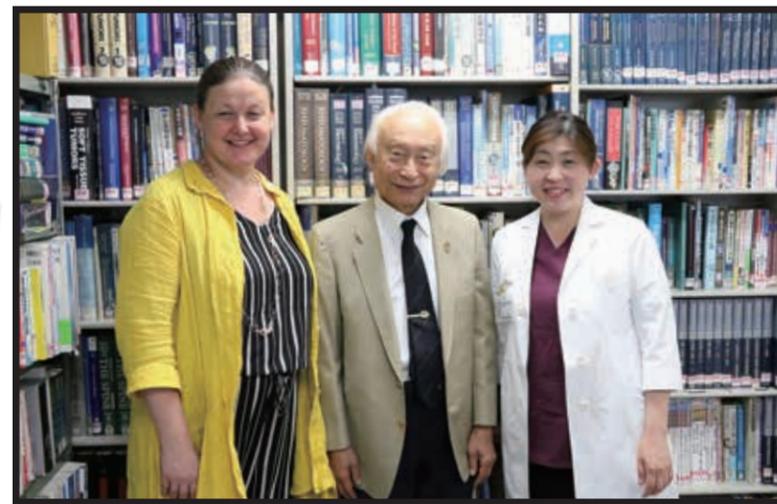
新潟大学全学同窓会事務局
電話:025-262-7891
(受付時間 平日10:00~15:00)
E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



恩師: **高橋 榮明 名誉教授** 元・新潟大学医学部教授 X 教子: **村上 玲子さん** ベローワ・オリガさん

シリーズ vol. **24**
恩師と語らう

師弟で懐かしむ当時の新潟大学



高橋 1992年当時、新潟大学ハロフスクの直行便があり、ロシアの患者を新潟大学へ受入れていました。それがきっかけで交流が始まり、翌年に新潟で開催された日露の医学医療交流シンポジウムでの意見交換から、21世紀の医療を支えるために学生交流に力を入れることが決まりました。その時、私は国際交流委員会の副委員長。最初に受入れた学生のひとりがかオリガ先生です。彼女は非常に優秀で、脊髄手術モニタリングの検査法を学びたいと3カ月間、新潟で過ごしました。村上先生の入局は私が教授最後の年でした。

村上 入局当初、大学医局に所属する女性医師は私を含めて2人だけだったのでオリガ先生とはすごく仲良くなりました。お揃いの白衣を着たことも(笑)。高橋先生は学生に熱心に留学を勧めてください、私は夏休みにアメリカの病院を見学しようと決意したんです。先生が定期的に企画してくださった英会話での昼食会に参加して、留学の準備を進めていました。でも、私は出発直前に椎間板ヘルニアで入院。結局、留学できず先生に治療までしていただくことに(苦笑)。いろいろな意味でお世話になりました。

オリガ 先生はいつも和やかで親切。でも、毎朝「オリガ、いいアイデアを思いついたよ」と、私にいろんな宿題を出してくるんです(笑)。大変でしたが、そのおかげで短期間の留学にも関わらず論

村上 先生、本当ですか(笑)?
高橋 中古だったけれど(笑)。せっかく技術を学んでも、機器が手元にないと意味がないから。私が若い頃、アメリカで研修を受けた際、向こうの医師はみんな親切に



文を書き、学会発表をすることもできました。帰国の際には、検査機器までいただいた。シベリア鉄道で帰ったんですけど、税関を通るのに苦労したのもいい思い出です(笑)。

接してくださったんですよ。同じことを今度は自分が東アジアで医師を志す若者にしてあげたいと強く思った。だから学生や若いドクターを育てることに力を入れてきたんです。

村上 今回、3人で会えて本当に嬉しいです。先生は当時からいつもニコニコしていましたね。
オリガ 私は先生が怒ったところを見たことがありません。
高橋 もちろん怒ったことくらいありますよ(笑)。

村上 私は、広い世界を見ることを先生から学びました。現在、新潟大学医学部ではG-MedEXの制度で様々な国の医師や学生とデイスカッションできる環境が整っています。これも先生が当時から国際交流に尽力されたからです。
高橋 G-MedEXは本当に素晴らしい制度。当時、私が想像していた以上の内容です。両国の学位を取れるなんてすごいこと。この制度を経てロシアで活躍し、大きな成果を生んでいる医師も多数いると聞いて、夢のような展開です。
オリガ 新潟での学びや経験は非常に役に立っています。親切で聡明な先生を整形外科の師として今後も見習っていきます。
村上 整形外科は圧倒的に男性医師が多い社会。そんな中で何ひとつ不満を感じることはない環境で過ごせたのは、ひとえに先生のおかげだと思っています。

高橋 女性に限らず、年齢や住む場所に応じて、どのように能力を発揮するかを考えることは医師にとつて重要です。女性が活躍できる時代ですから、ふたりに医師として益々活躍を続けてほしいと思います。

※特徴あるダブルディグリープログラムをはじめとした種々の大学院教育の設置など、多層的かつ総合的なプログラム・コースを企画し、強力に推進するグローバル教育への挑戦として新潟大学が新たに取り組むプロジェクト。http://www.med.niigata-u.ac.jp/g-medex/



たかしひであき
高橋 榮明 名誉教授

博士(医学)。専門は脊柱側弯症・骨代謝研究。昭和33年新潟大学医学部卒業。昭和40年から整形外科にて診療・教育・研究。平成元年同教授。医学部の国際交流に尽力し、日露交流の礎を築く。平成11年3月退官。平成8年新潟日報文化賞、平成10年環日本海新潟賞、平成22年瑞宝中級章受賞。



むらかみれいこ
村上 玲子さん

博士(医学)。専門は小児整形外科。平成10年3月新潟大学医学部卒業。平成21年3月に新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了。平成27年6月から新潟大学医学部総合病院高次救命災害治療センター助教を務める。



ベローワ・オリガさん

専門は脊柱側弯症、股関節(人工関節)、関節外傷。新潟大学医学部平成6年学生交換留学。平成10年医師として留学。現在はクラスノヤルスク医科大学外傷・整形外科教授として勤務。

一学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

経済的理由により修学が困難な学生に対する修学支援のための事業に限定して、ご寄附をお願いしております。平成28年税制改正により、上記の用途に限定した寄附に係る個人寄附者は、「税額控除」と「所得控除」のどちらかを選択することが可能となったことに伴い28年11月から募金活動を開始しました。

寄附目的と支援事業

右記事業のうちから支援の必要性の高い事業に活用させていただくこととし、寄附者が支援事業を指定することはできません。

- 入学料、授業料又は寄宿料の全部又は一部を免除する事業
- 学資金を貸与又は給付する事業
- 学生の海外への留学に係る費用を負担する事業
- TAやRAの業務を行う学生に対する手当等を負担する事業

平成30年度においては、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」及び「新潟大学修学応援特別奨学金」に支援を行います。

■寄附者名簿 (H30.4~H30.5寄附入金分) ※50音順 敬称略

〈個人〉 柏木 道子 金子 哲 神長 直美 小林 七雄 佐藤 純一 森 正勝 盛崎 眞治 山形 学 吉塚 康一 匿名希望者 5名 〈団体〉 匿名希望者 1名

新潟大学基金

「新潟大学基金」は、「新潟大学まなび応援基金」で行う事業以外の、全ての事業を推進するためご寄附をお願いしております。寄附者が教育活動の支援、学生の修学支援、研究活動の支援、キャンパス等施設整備の支援、病院運営の支援、大学全体の支援など寄附目的を指定することができます。

■寄附者名簿 (H30.4~H30.5寄附入金分) ※50音順 敬称略

〈個人〉 青木 和博 五十嵐 敏行 荻野 淳 川村 裕 小林 孝至 正道 隆介 関川 智子 塚野 浩明 中島 貴子 廣嶋 省太 丸山 俊行 山木 芳久	明田川 泰輔 石坂 眞樹 荻原 剛 熊谷 周三 小林 高範 菅又 正剛 関谷 哲雄 塚本 健二 中西 雅 福井 麻里子 三浦 健 山崎 和久	浅岡 敏明 板垣 成孝 尾崎 和幸 熊倉 正志 近藤 愛夏 鈴木 明夫 高橋 おがわ 寺田 康子 中野 克俊 福原 紀章 三ツ井 彩花 山崎 肇	姉崎 利治 岩淵 清乃 小田島 仁 小泉 幸雄 斉藤 俊一 鈴木 敏彦 高橋 おがわ 遠間 文男 西潟 守 藤原 加奈子 宮越 勝久 山本 寛人	阿部 英輔 内田 和仁 風間 雄一 小出 千秋 斉藤 達也 鈴木 信博 高橋 純 戸嶋 慎一 西澤 薫 藤原 南那子 茂木 大輔 山本 善政	安部 恒 及川 駿平 片柳 憲雄 腰山 みゆき 佐藤 薫 須田 和行 竹内 達也 中川 照基 畠山 貴明 堀井 浩 安川 敬一郎 吉村 俊哉	阿部 祐二 大城 政樹 金丸 亮 小須賀 基道 設楽 篤幸 須田 和行 竹内 陽子 中澤 俊郎 樋浦 徹 松田 由紀夫 柳沢 早苗 渡辺 文智	安部 良明 太田 智 金村 俊文 小玉 真梨子 下村 真弓 関 慶一 谷口 和史 中澤 友幸 菱沼 恵美子 松本 俊男 山形 学 渡部 優	安保 訓子 小川 淳 金子 健三 小林 要 正田 裕一 関 奈緒 谷口 和史 中澤 友幸 菱沼 恵美子 松本 俊男 山形 学 渡部 優	匿名希望者 25名
---	--	--	--	--	--	---	---	---	-----------

〈団体〉 アーチェリー新潟 新潟県厚生農業協同組合連合会 ハードオフアーチェリークラブ

新潟大学サポーター倶楽部

継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附することとし、平成28年3月に設立しました。企業・団体を中心に入会をお願いしております。また、会員への情報発信により、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指しています。

■寄附者名簿 (H30.4~H30.5寄附入金分) ※50音順 敬称略

〈個人〉 株加賀田組 JCCソフト株 株リビングギャラリー

トピックス

5月30日(水)に新潟大学学業成績優秀者奨学金の授与式を実施しました。この制度は、各学部2年次以上の学業成績優秀者各学年各3人に対し年間10万円の奨学金を授与するもので、新潟大学基金(サポーター倶楽部会費)から支援を行っています。



※授与式の様子は9頁に掲載いたしました

新潟大学古本募金

新潟大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附される取組です。寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられ、平成29年2月から募金活動を開始しました。

- 募金方法
- ★学内(図書館、総合教育研究棟、第1学生食堂、大学会館他)に設置された回収ボックスに入れる。
 - ★5点以上を段ボール箱に入れ、取り扱い業者に電話(嵯峨野(株)TEL.0120-29-7000)で回収を依頼する。(詳しくは、パンフレットを参照してください。)

■寄附者名簿 (H30.4~H30.5寄附入金分) ※50音順 敬称略

〈個人〉 志田 哲司 匿名希望者 6名 〈団体〉 新潟大学人文社会・教育科学系教職員有志一同 匿名希望者 1名

問合せ先 **新潟大学サポーター連携推進室** [TEL]025-262-5651・6010・6356 [e-mail]kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp [HP]http://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

新潟大学
古本募金

読み終えた本が募金となって
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください

(受付) 9~18時

0120-29-7000

(運営) 嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

お申込み

企画 新潟大学サポーター連携推進室

TEL. 025-262-5651, 6010

真の強さを学ぶ。
 新潟大学

今回のテーマ『夏休みは突然やってくる』

「夏休みは突然やってくる。その土曜日は、新潟LOTSで開催されるNagicoのライブ会場で、ササダンゴマシンTシャツの販売をやるだけという、半分仕事で半分遊びのような、そんなふわっとした予定の1日だった。販売させてもらうのは、自分のグッズだけではない。新潟の情報番組『八千代ライブ』で共演するお笑い芸人・うしろシティがうっかり作りすぎて余剰在庫になったピーチサンダルを売りさばくという大事なミッションもあった。

サンダルが詰まったダンボールを、売店を手伝ってくれた後輩と車に積み込みながら、ふと大事なことを思い出した。お釣りの小銭の準備を忘れていたのだ。自分のTシャツ類は小銭のお釣りがいらぬような値段設定をしていたが、うしろシティのグッズは600円だったり1500円だったり、つまり1000円玉と500円玉が必要なのだ。銀行も営業していないし、これはまずい。何かいいアイデアはないかTwitterにその



「うまい! フルーティーな香りが最高!」
5本の中から彼が選んだのは、神奈川県のおりずナル柑橘を副原料に使った、その名も「湘南ゴールド」というフルーツビールで、こんな猛暑日の一杯目には最適すぎる一本だ。どうして僕も我慢がでなくなつた僕も自分のために5本のクラフトビールを購入した。飲めるのはあと何時間先になるか分からないが、今日1日頑張れば頑張っただけ、このビールたちは美味しくなる。実はビールが本気で美味しいと思えるようになったのは今年の夏からだ。こんなにカジュアルにオンとオフを切り替えてくれる飲み物があると気がつかなかった。もっと早くビールと分かったら、今までの41年の人生もこんなに楽しかったことか。

後輩は「わー! すいません、ありがとございます!」と言いつつ終わる前から目ざとく見つけた店内の栓抜きで蓋を開け、一気に330mlある瓶ビールを飲み干した。
「うまい! フルーティーな香りが最高!」
5本の中から彼が選んだのは、神奈川県のおりずナル柑橘を副原料に使った、その名も「湘南ゴールド」というフルーツビールで、こんな猛暑日の一杯目には最適すぎる一本だ。どうして僕も我慢がでなくなつた僕も自分のために5本のクラフトビールを購入した。飲めるのはあと何時間先になるか分からないが、今日1日頑張れば頑張っただけ、このビールたちは美味しくなる。

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第8回は理学部です。

第8回●理学部

つながりの科学とタイガース

物理学や計算物理学でしたが、15年ほど前から経済物理学に分けて入っています。経済物理学とは、統計物理学の概念と手法を範としながら、実証的に経済現象の解明を目指す新しい文理融合型の学問です。これまでに、共同研究者と協力し、和書および洋書を各2冊出版しました。それらのタイトルが示すように、研究を進めるにあたって、企業や銀行など経済主体間のつながりに着目してきました。例えば企業同士は、直接の商取引、銀行との融資関係、特許の共同出願、役員派遣など様々な形で結びついています。それらのつながりによって経済が成り立ち、つながりの善し悪しによって経済の盛衰が決まると言っても過言ではありません。つながりを科学することは、経済物理学の研究で重要な位置を占めています。そのようなつながりの視点は、私たちの日常生活にも大いに役立つと期待されます。

私は、共同研究の関係で、米国のルイジアナ州立大学(LSU)を度々訪問する機会がありました(その成果の一つとして、本理学部・大学院自然科学研究科とLSU基礎科学部との間で部局間交流協定が締結されました)。LSUのキャンパスは広大で、10万人が収容できるフットボール・スタジアムがあるほどです。ある週末にキャンパス内を散策していたところ、キャンピングカーが所狭しと駐車し、その周りに皆がパーベキューをしているところに出くわしました。そのような光景は米国では珍しくないのですが、LSUのフットボール・チームの試合がある巨大スタジアムであり、数多くの卒業生がその応援に駆けつけていたのです。フットボールの試合を通じて、自然に同窓会が開かれる「仕掛け」です。フットボールの話を肴に、同窓生間の交流がそこかしこで行われ、旧交が温められたとともに、新しいつながりが生まれたことでしょう。

ビッグスワンを五十嵐キャンパスに持つことは物理的に叶いませんが、わがキャンパス内にもキャンパスがあるのをご存知でしょうか。残念ながら、現在では廃棄して、とても使い物になりません。大学と同窓会で協力して、このキャンプ場を復活させたいというでしょう。夏休みなどに、卒業生が家族とともに「故郷」へ帰省するよい機会を提供できます。その際に、在校生のみならず卒業生が楽しめるように五十嵐キャンパスのエンタテイメント性を高めます。美味しい食事ができるレストランや五十嵐浜までの専用路などがあれば最高です。

ところで、LSUのフットボール・チームはタイガースの呼称をもっています。驚くことに、本物の虎(マインク)と呼ばれています。マイクはタイガースの応援にスタジアムまで駆けつけます。私もマイクがキャンパス内を散歩しているのを見かけたことがありますが、実は、本学のフットボール・チームもタイガースです。LSUと本学の新しいつながりが見つかったところでした。

家富 洋
理学部教授
大学院自然科学研究科副研究科長

専門は、経済物理学、多変量解析、ネットワーク科学。ロートル教員ながら、野心をもって新しい研究分野へ積極的に挑戦しています。

生人間の交流がそこかしこで行われ、旧交が温められたとともに、新しいつながりが生まれたことでしょう。

ビッグスワンを五十嵐キャンパスに持つことは物理的に叶いませんが、わがキャンパス内にもキャンパスがあるのをご存知でしょうか。残念ながら、現在では廃棄して、とても使い物になりません。大学と同窓会で協力して、このキャンプ場を復活させたいというでしょう。夏休みなどに、卒業生が家族とともに「故郷」へ帰省するよい機会を提供できます。その際に、在校生のみならず卒業生が楽しめるように五十嵐キャンパスのエンタテイメント性を高めます。美味しい食事ができるレストランや五十嵐浜までの専用路などがあれば最高です。

ところで、LSUのフットボール・チームはタイガースの呼称をもっています。驚くことに、本物の虎(マインク)と呼ばれています。マイクはタイガースの応援にスタジアムまで駆けつけます。私もマイクがキャンパス内を散歩しているのを見かけたことがありますが、実は、本学のフットボール・チームもタイガースです。LSUと本学の新しいつながりが見つかったところでした。

入学準備は、

新潟大学生協におまかせください

お部屋探しから、大学生活まで先輩学生が実体験からアドバイス。新入生サポートセンターへご来場ください!

サポートセンターは12月OPEN

教科書・教材情報などの入学準備資料は待っていても届きません。新潟大学への受験が決まったら、すぐに入学準備資料の請求をしましょう!

入学準備は生協への資料請求から

新潟大学生協 新入生応援サイト

UNIV 新潟大学生協同組合 TEL 025-262-6203 / FAX 025-262-6205

検索

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

本学のシンボルのひとつ“赤門”が 卒業生の想いから以前の姿を取り戻しました

本学医学部の通称「赤門」は、約100年前に建設、その後移設されたものの歴史的景観として国指定の登録有形文化財に認定され、学生、教職員のみならず地域の方に今なお親しまれております。

このたび本学医学部を昭和40年代に卒業された方から、老朽化した赤門の修繕を目的とした寄附の申し出があり、5月28日(月)から30日(水)にかけて修繕及び洗浄が行われました。今回の修繕及び洗浄により、目立っていた苔も落ち、重ねた年月を感じさせる風格はそのままに本来の姿を取り戻しました。



赤門修復前



赤門修復後

第4回U-goサロン開催



6月27日(水)、本学研究推進機構(企画:URA)が主催し、第4回「U-go(ユーゴー)サロン」を開催しました。「U-goサロン」は、6月と12月の半期に一度、研究者等が一堂に会する場を設け、新たな出会いや異分野連携・融合研究に向けたグループ形成を支援するイベントです。

今回は「発見!ニイガタ研究資源天国」をテーマとして開催。学内外から約90名の研究者が参加しました。前半のショートプレゼンテーションでは、学内からは人文社会科学系、自然科学系、共用設備基盤センター、佐渡教育関係共同利用拠点、災害・復興科学研究所の研究者ら、学外からは長岡技術科学大学、新潟薬科大学、新潟工科大学の研究者ら、合わせて13名が、それぞれの研究内容の紹介や、共同研究者を募集する熱のこもった呼びかけを行いました。また、後半のポスターセッション&懇親会では、23件のポスター発表があり、至るところで多くの研究者による活発な意見交換が行われました。

ノーベル生理学・医学賞受賞の大隅良典氏を招き 「高校生のためのシンポジウム」を開催

2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞し、基礎分野の研究のみならず医学を初めとする広い研究分野に多大な影響を与えている大隅良典氏をお招きし、新潟大学教育研究特別シンポジウムとして7月8日(日)に「高校生のためのシンポジウム-オートファジーのしくみの解明-」を開催しました。本シンポジウムは、主に県内の高校生に世界トップレベルの研究を直接体感してもらい、科学への関心を高めてもらうことを目的に理学部が企画したもので、高校生250名を含む計400人が会場である朱鷺メッセの国際会議場に足を運びました。



本学名誉教授である門脇基二氏からのオートファジー研究の背景や歴史の説明に続き、大隅氏から酵母のオートファジー現象発見のエピソードや、ご自身のキャリアもお話いただくとともに高校生に向けてメッセージが贈られました。その後のパネルディスカッションでは高校生が直接質問できるとあり、時間いっぱいまで挙手が止むことなく、高校生の意識の高さを垣間見ることができました。



新潟大学
季刊広報誌

六花

R I K K A 2018.SUMMER No. 25

発行 / 平成30年7月
編集 / 新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話 / 025-262-7000
FAX / 025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

Facebook

<https://www.facebook.com/niigata.univ>

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報センターまでご連絡ください。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。